

地方史ニユース・ダイジェスト

胎児の骨など発掘―立石貝塚―

大分県教委の宇佐市立石貝塚の発掘調査は八月一六日から二四日まで行なわれたが、縄文期の人骨八体が発掘された。うち四体はほぼ完全な形。性別は女性三、男性一で、女性の身長は一四〇センチ未満、男性は一五一センチとなっており、いずれも縄文期の成人としては全国平均よりも五―六センチ低い。また女性の一人の骨盤内から胎児の骨も発見された。(大分合同新聞・八月二五日より)

六百年前の仏像発見

南海部郡直川村赤木の正光庵から、「正安元年、源光寺付物」と題書された高さ四十センチの木彫阿弥陀如来座像が発見された。発見者は同村史談会員で、史跡調査中に発見したものの。同庵のある場所にはかつて源光寺があったことが古文書に見え、付近には宝きょう印塔や五輪塔などが散在している。

旧石器人の住居？

大分大学富来隆教授の指導する「あしの会」では、八月二日から二七日まで大分市戸次の尾津留洞窟の発掘調査をしたが、約五万年前のものと推定される旧石器一五点を発掘した。石質は凝灰岩質で、丹生石器と類似しており、同洞窟は旧石器人の住居跡ではないかと見られている。

(大分合同新聞・八月二八日より)

宇佐市文化財を守る会結成

八月二八日に宇佐市で同市の文化財を守る会が結成された。これは市民の文化財への関心を組織的に高め、開発に伴う破壊から文化遺産を守り、後世に伝えようとの趣旨から結成されたもので、約一六〇人が出席した。

(大分合同新聞・八月二九日より)

木浦鉦山史の編纂

南海部郡宇目町木浦中学ではクラブ活動で、木浦鉦山の歴史を

まとめようと鉾山関係の史料や民話、民俗行事などの調査を行なっている。

(大分合同新聞・九月二日より)

国見町で文化財教室を開く

東国東郡国見町では県の文化財愛護地区に指定され、九月十日に第一回の文化財教室を開いた。同日は渡辺澄夫大分大教授の「国見町の歴史と文化財」・岩男順大分大教授の「文化財(彫刻)について」の講演が行なわれた。

(毎日新聞・九月二日より)

庄内町でも県巡回文化財教室

九月二日に同町農協ホールで県の巡回文化財教室が開かれた。これは県民に文化財の重要性を認識してもらうのが目的で開かれたもので、入江英親県文化財専門委員の講演があり質疑応答が行なわれた。

(大分合同新聞・九月二日より)

文化財保護にたちあがる青年学級

臼杵市青年学級では同市内の文化財が半ば放置の状態にあるため、文化財は青年の手で護ろうと、文献をたよりに一つ一つを踏査している。そして未確認文化財を発見したいとはりきっている。

(毎日新聞・九月二日より)

七百二十年前の石帖鐘

別府市鉄輪の「白池地獄」にある六地蔵石幢は県下で最も古い六地蔵石幢であることが、県文化財調査委員入江英親氏の調査であきらかになった。同石幢は高さ二・五メートルで「建長三年辛亥」と建立年号が刻まれている。所有者の加藤知孝氏は近く県に重要文化財の中請をする予定。

(毎日新聞・九月二日より)

標柱をたてて文化財保護のPR

大分市鶴崎公民館の文化財教室では、同地区内の小池原遺跡や小牧山古墳、乙津川の古戦場など史跡一四カ所に標柱をたてて文化財愛護思想の普及につとめることになった。

(大分合同新聞・九月一七日より)

宇佐市で埋蔵文化財を展示

宇佐市ではこれまでに多数の埋蔵文化財が発掘されており、市をあげて文化財を守る運動が進められているが、この文化財の保護意識を一そう高めるために、四日市中央公民館に出土品を展示し公開することになった。展示品は当面縄文・弥生式土器や石器・古墳・歴史時代の遺物など約一五〇点の予定

(大分合同新聞・九月一八日より)

武蔵町が文化財を指定

東国東郡武蔵町では九月に初の町指定文化財一八件二四点を決めた。指定された文化財は次の通り。

〔建造物・彫刻・工芸〕丸小野寺の板碑②、小壱天師寺の国東塔、同毘沙門天と不動明王立像、報恩寺の鰐口、同観世音菩薩立像、藤ヶ迫の国東塔、〔重要民俗資料〕吉弘薬芸能具⑤、〔古文書〕清原文書、安見文書、丹生文書、〔天然記念物〕小城山原生林、椿社のクスの木、楽庭神社の大杉、〔史跡〕行者原古墳群、今市城跡、内田砂丘遺跡、御在所本宮、吉弘七代の墓。

(大分合同新聞・九月二〇日より)

室町期の宝塔を発見

下毛郡本耶馬溪町東屋形落合の山中で宝塔や五輪塔が発見された。発見者は同町教育委員の小野幸雄氏で、散乱している宝塔類の復元を試みたところ九基が復元できた。その中には「永享元年十月七日」と刻まれたものもある。同所からは八十年ほど前に石仏の薬師如来像が発見されており、今後の調査が期待されている。

(大分合同新聞・十月四日より)

盲僧史料を発見

松岡実氏は荒神琵琶調査を日田市で行なっていたが、同市清岸寺町の円満寺で盲僧関係史料を発見した。従来、大分県では盲僧史料はあまり発見されておらず、関係者の間では「まぼろしの古文書」などと呼ばれていたが、こんどの史料発見で盲僧教団の組織がわかるのではないかと期待されている。

(大分合同新聞・十月九日より)

農耕起源解明の新資料

直入郡荻町横迫遺跡の発掘調査は、十月一日から賀川光夫氏によって行なわれたが、縄文晩期の住居跡と農耕地帯とを区分する

溝や豆類の炭化粒などを発掘、農耕起源解明の新資料として注目されている。

同遺跡からは右の豆類の炭化粒の他に墨色研摩の深針型土器片や石篋・石鉢などが発掘されており、農耕起源解明の新資料として注目されている。

(大分合同新聞・十月九日より)

明治七年からの小学校教則を発見

中津市永添の医師横井忠克氏は明治七年から同十二年までの

「大分県、下等小学教則」を同氏宅の屋根裏から発見した。

同教則は教科課程が八級から一級までに分けられており、五級から日本地誌、二級から万国地誌のように高学年になるにつれて高度になっている。

(大分合同新聞・十月二十日より)

穀類の貯蔵穴を発見

県文化室の宇佐市埋蔵文化財発掘予備調査中に、四日市高校新築移転用地台の原遺跡で穀類の貯蔵穴八基と土椀二基が発見された。

一般に穀類の貯蔵穴は弥生中期頃まで穀類を土器に入れて貯蔵するのに使われていたもので、同貯蔵穴からは下城式土器片と木実や豆の炭化物が発見され注目をあつめている。

(毎日新聞・十月二十四日より)

町の歴史を町報に連載する橋爪氏

大野郡大野町の橋爪文夫氏は同町内の史跡調査を永年行なってきたが、その史料を整理して町報に「大野町の歴史」と題して執筆連載中である。町民の間から「この大野町の歴史を読むのを楽しみにしている」という声も聞かれ、好評をほくしている。